

# News IR

IR（Institutional Research/インスティテューショナル・リサーチ）は、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための情報収集と分析を意味します。

二松學舎大学においても、大学の機関活動に関するデータ収集・分析を行い、大学がどのような課題を抱えているのか、その課題はどのような要因と関連しているのか、今後どのような意思決定を取り得るのか等を客観的に把握し、政策形成・意思決定を支援するための活動を行っています。

平成29年度2号（通巻第4号）

## Contents

◆「PROG」の実施について	1
◆「PROG」の結果について	3
◆「PROG」の結果を受けた取組み	4
◆二松學舎憲章	4

## ◆「PROG」の実施について

平成29（2017）年4月～6月にかけて、本学の1年生、3年生を対象として、ジェネリックスキル測定ツールである「PROG」を実施しました。

**「PROG」とは、大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向（以下、ジェネリックスキル）の育成を目的に、ジェネリックスキルを「リテラシー（知識を活用して問題を解決する力）」と「コンピテンシー（人と自分にベストな状況をもたらそうとする力）」の2点から測定するペーパーテストとなります。**

近年、社会・経済・文化の各方面において、技術革新やグローバル化の進展がめざましく、それに伴い社会で活躍する人材に求められる知識・スキル・技能も大きく変化しています。以前は、ある一定領域の知識・スキル・技能を身につけ発揮することが社会で活躍するための有効な手段でしたが、現代は誰もが未知の事態への対応を求められ、また一度獲得した知識・スキルの陳腐化の速度もますます高まっています。これから社会に出ていく大学生には、知識・スキルの習得はもちろん、獲得した知識・スキルを革新し続け、自ら成長し続ける力の礎となる汎用的な能力・態度・志向、つまりジェネリックスキルが求められています。

現在、国内外において教育におけるジェネリックスキルの育成が重要視されており、このような力の育成を求めて、内閣府、経済産業省、文部科学省等から様々な提言がなされています。

これを受け、本学でも学生のジェネリックスキルの育成及び卒業後のより良い就業等に資することを目的に、本年度から「PROG」を実施することとしました。今後、1年生、3年生を対象とすることで、ジェネリックスキルの獲得度を測るとともに、本学の教育を通してジェネリックスキルの更なる養成を目指していきたいと考えております。

### ●リテラシーテストの概要

▶リテラシーとは、**知識を用いて問題解決にあたる力**を意味します。「PROG」では、この力において、ペーパーテストでも測定可能な「情報収集力（問題を解決するために必要な情報を集める力）」、「情報分析力（集めた情報を分析する力）」、「課題発見力（分析した情報の中から解決すべき課題を見つけ出す力）」、「構想力（解決策を考える力）」の4つの力について測定します。

▶「PROG」では、設定された状況や文脈の中で、文章や資料を読解したり計算したりするように工夫されており、自らの経験を活かした解釈や判断が問われる問題となっています。

### ●コンピテンシーテストの概要

▶コンピテンシーとは、**自分を取り巻く環境に働きかけ、実践的に対処する力**です。「PROG」では、社会人として成果をあげるために必要な能力として、「対課題」「対人」「対自己」の3領域で測定・評価しています。

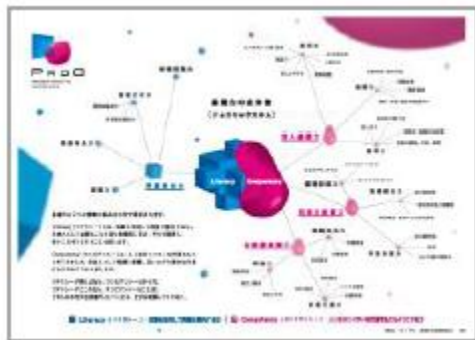
▶「PROG」のコンピテンシーテストは、実社会で活躍する若手リーダー層の行動特性のデータと比較することで、実社会で通用する「周囲に働きかけ対処する力」を計測するよう設計されています。

▶コンピテンシーは、社会の最前線で働く若手リーダーの行動特性にどれだけ近いかを示したもので、いわゆる「正解」といったものではありません。コンピテンシーが高ければ企業の若手リーダーの一般的な行動特性に近く、「印象が良いとみられる」ということですので、自らのキャリア形成に照らし合わせながら計測結果を活かして頂ければと考えています。計測結果は成績ではなく、個性を客観的に捉える一つのアプローチとして受け止めて下さい。

## ●学生への結果報告書

- ▶学生の手元に届く結果報告書は、数値結果とイメージグラフィックで可視化され、学生が読みやすいよう、また自己理解を深められるように記載されています。
- ▶リテラシーに関しては、測定した4つの力を5段階で評価し、各レベルの到達目標を明示しています。また、コンピテンシーに関しては、測定した3領域を7段階で評価しています。
- ▶結果報告書とともに、学生に対しては「PROGの強化書」という名の冊子を渡しています。こちらには、学生自身が、大学生活（授業、部活、サークル、アルバイト等）の中でジェネリックスキルをどう強化すれば良いか、ジェネリックスキルを身につけていくにあたっての行動のヒントが記載されています。どのような大学生活を送り、どのジェネリックスキルを強化していきたいかを考えるワークシートや、実際に強化するために取り組むと良いこと（具体的な行動のアドバイス）、測定結果を振り返り、自己PRを作成するための準備ができるワークシートが掲載されています。

学生への結果報告書（例）



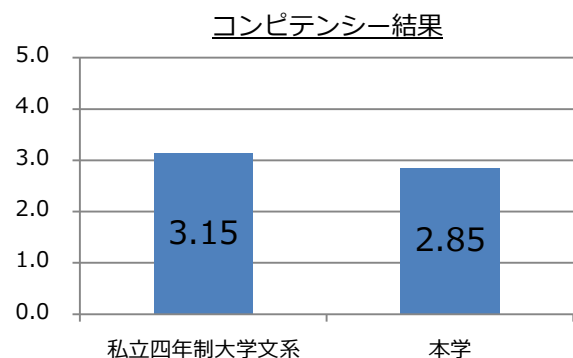
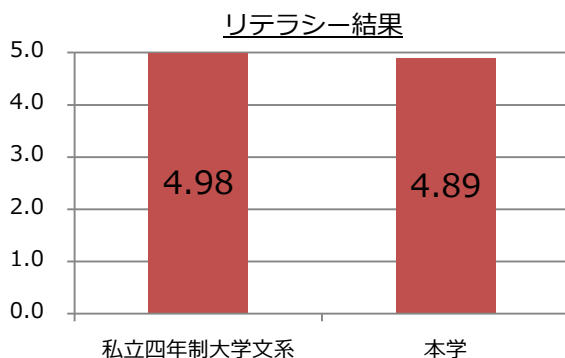
「PROGの強化書」（例）



※本資料は、「PROG」提供者の資料を参考に作成しています。

## ◆「PROG」の結果について

「PROG」テストは、無料とし、任意に受ける形としています。今年度の「PROG」は、1年生670人、3年生173人が受けてくれました。



※それぞれの（PROG1年生平均値+同3年生平均値）÷2

## ◆ 「PROG」の結果を受けた取り組み

「PROG」結果については各学年・学部毎に当該学生を対象とした解説会を開催し、その活用方法についてプロからレクチャーをしてもらいました。

また、本学の学生の特徴分析について、文学部及び国際政治経済学部の教授会でも解説してもらい、自らが対象としている学生のリテラシー・コンピテンシーの特性を教員間で共有し、それを踏まえた授業経営に取り組んでもらうこととしています。

これまでも「学生の実態・満足度調査」の結果等から、本学の学生はやや不活発なクラブ活動や課外学習環境のもとで、他者との共生を図る力が少し弱いとみられてきました。今回の「PROG」の結果でもリテラシーは私大文系平均並みを確保している一方、自分に自信を持って統率していく力を中心にコンピテンシーが私大文系平均を下回っています。

この結果が本学学生の学力や社会性を十分に説明しているとは限りませんが、今後、大学ではピア・サポート活動—教職員の指導・援助のもとに、学生達相互の人間関係を豊かにするための学習の場を実態に応じて設定し、そこで得た知識やスキル（技術）をもとに仲間（ピア）を思いやり、支える実践活動—を導入すべく検討しています。

## 【二松學舎憲章】

### <建学の精神の発揚>

・教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スル」の発揚に努めます。

### <教育・研究の目標達成>

- ・人材育成のため、自らその体現者となるべく、自己研鑽に努めます。
- ・法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
- ・現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

### <学生生徒支援>

- ・教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
- ・教育・研究の充実に常に努め、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

### <社会貢献>

- ・教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
- ・社会情勢に常に目を向け、国際社会と世界平和に寄与します。

【発行主体】

二松學舎大学

大学改革推進部 I R 推進室

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285

FAX (03)3261-7413

[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp